

児童虐待防止シンポジウム

映画上映会とパネルディスカッション ～人と地域がつながり親子が育つ～

年々増加の一途をたどる児童虐待。地域のあたたかさが残る三浦市だからこそ出来ることがあります。

映画「母さんが僕をどんなに嫌いでも」の映画鑑賞を通して子どもの笑顔があふれる地域作りについて考えましょう。

◆日時 令和5年11月11日（土）13時～16時（12時30分開場）

＊映画上映会：13時～14時45分

＊パネルディスカッション：15時～16時

◆場所 三浦市民ホール（うらり2階）

映画上映後、映画主人公の歌川たいじさん、鎌倉三浦地域児童相談所長、三浦市長をパネリストにお迎えしてパネルディスカッションを行います。

◆参加費 無料

◆主催 はっぴー子育て応援団

20年以上、母の愛を諦めなかった息子の実話

胸が張り裂けるような壮絶な過去と向き合い、母の愛を掴み取ろうとした息子の実話が映画化

「母さんがどんなに僕を嫌いでも」、胸が張り裂けるような言葉がタイジ、いやがて奇跡を引き起こした実話をもとにした作品だ。原作者であるこの映画は、母親から拒絶され、寂しさから愛されることなく歌川たいじが実体験をもとに書き綴った原作のコミックエッセイは反響を呼び、小説化、そして映画化されるまでになった。

奇跡の実話を紡ぐため、俊才が結集！

主人公・タイジを演じるのは、若手俳優の中でもその演技力の高さに定評のある太賀、タイジを心身ともに傷つけてしまう母・光子役には、他、木野花をはじめとした実力派俳優陣が脇を固めている。主題歌は実力と人気を兼ね備えた女優・吉田羊、タイジを支える友人・キミツ役を、スティーブンスピルバグ監督作品「レディ・プレイヤー1」の

出演で注目される森崎ウィンや白石隼也、秋月三佳が好演。その他、木野花をはじめとした実力派俳優陣が脇を固めている。主題歌はゴスペルズが歌う「Seven Seas Journey」。この映画の為に書き下ろした楽曲は激みきたと強い愛を感じる歌詞が心を打つ。

STORY

歌川タイジ（太賀）は幼い頃から美しい母・光子（吉田羊）のことが大好きだった。だが、家の中にある光子はいつも情緒不安定で、タイジの行動にイラつき、容赦なく手を上げる母親だった。17歳になったタイジは、ある日光子から酷い暴力を受けたことをきっかけに、家を出て1人で生きていく決意をする。努力を重ね、一流企業の営業職に就いたタイジは、幼い頃の体験のせいでどこか卑屈で自分の殻に閉じこもった大人になっていた。しかし、かけがえのない友人たちの言葉に心を動かされ、再び母と向き合う決意をする。

大賀 太賀
主演 吉田羊
監督 森崎ウィン
脚本 大谷洋介
原作 歌川たいじ「母さんがどんなに僕を嫌いでも」(KADOKAWA)
主題歌 ゴスペルズ「Seven Seas Journey」(KADOKAWA)
制作 株式会社ハッピー子育て応援団
制作委員会
制作 株式会社ハッピー子育て応援団
制作委員会
制作 株式会社ハッピー子育て応援団
制作委員会

©2018「母さんがどんなに僕を嫌いでも」製作委員会

お問い合わせ
はっぴー子育て応援団：happymiura@yahoo.ne.jp
三浦市保健福祉部子ども課：046-882-1111 内線316